

## モニタリング結果報告書

施設 神奈川県立神奈川近代文学館

指定管理者(公財)神奈川文学振興会

施設所管課 県民局くらし文化部文化課

(平成23年度 上半期)

### 管理運営状況総括

今期の指定管理者の管理運営状況(1~9の結果を踏まえ、判定してください)

A

A: 提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。

B: 提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。

C: 提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。

D: 提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

#### 1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	備考(確認事項等)
4月	5月9日	月報等で業務が適切に行われていることを確認した。
5月	6月9日	月報等で業務が適切に行われていることを確認した。
6月	7月8日	月報等で業務が適切に行われていることを確認した。
7月	8月8日	月報等で業務が適切に行われていることを確認した。
8月	9月9日	月報等で業務が適切に行われていることを確認した。
9月	10月7日	月報等で業務が適切に行われていることを確認した。

#### 2 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績又は今後の見込みを記載する。

##### <提案内容の概要>

人的財産とネットワークに基づく卓越した資料収集能力等を生かして幅広い事業を提案

- ①より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。  
(集客を目指す展示、独創性のある展示、外に広がる展示など)
- ②インターネットによる所蔵資料情報の公開を進める。
- ③専門館として文学のレファレンス<sup>\*1</sup>にきめ細かく対応する。
- ④館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会も積極的に開催する。
- ⑤特別展<sup>\*2</sup>や企画展<sup>\*3</sup>と連携した講演会、朗読会、講座、映画会などの企画を開催し、利用者のニーズに応える。

- ※1 レファレンス： 文学に関する情報ないし資料等の各種問い合わせに対し、仲介的な立場から援助するサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も多く、公共図書館等他施設から照会もある。
- ※2 特別展： 毎年2つの展示室で開催する大規模な展覧会。年2～3回（春と秋）開催。
- ※3 企画展： 常設展「文学の森へ」と同時開催する展覧会で、展覧会ごとに新たな企画として開催する中規模の展覧会。展覧会区分としては特別展に属する。

## <実施状況>

- ①・④ 4月 常設展 荻原井泉水と「層雲」100周年記念展、「新収蔵資料展」を実施  
(23年度)入場者数 542名(前年度550名との合計1,092名)
- 4月～6月 特別展「遠藤周作展」を実施 入場者数 12,360名
- 6月～7月 企画展「漱石と文人たちの書画展」を実施 入場者数 3,973名
- 8月～9月 特別展「安野光雅展」を実施 入場者数 15,130名
  
- ② 近代文学館のホームページで実施  
ホームページアクセス件数 95,824件(うち蔵書アクセス件数 32,455件)
  
- ③ レファレンス対応 110件
  
- ⑤ 4月  
「井泉水と層雲展記念講座」：「荻原井泉水著『自由律俳句入門』を読む」  
「遠藤周作展」記念講演会：「遠藤周作さんと私」  
春のカルチャーイベント：「遠藤周作『侍』を読む」  
「遠藤周作展」記念シンポジウム：「遠藤周作を21世紀に読む」  
「遠藤周作展」ギャラリートーク 他
- 5月  
「遠藤周作展」記念講座：「遠藤周作の、西欧世界との遭遇、キリスト教との遭遇」  
「遠藤周作」記念講談とトーク：「信長の愛した女たち」  
「遠藤周作展」ギャラリートーク 他
- 6月  
「遠藤周作展」「漱石と文人たちの書画展」ギャラリートーク 他
- 7月  
講演会「私の本について話そう」：『幸田家のきもの』  
「漱石と文人たちの書画展」記念講演会：「孫からみた漱石の書画」  
「漱石と文人たちの書画展」ギャラリートーク 他
- 8月  
「安野光雅展」記念対談：「ミスタ・アンの魅力と偉大」  
花音朗読コンサート、ビデオ上映会、「夏休み子ども映画会」  
「紙芝居がはじまるよ!」、「絵本であそぼ!」、「安野光雅展」ギャラリートーク 他
- 9月  
「安野光雅展」記念トークコンサート：「安野先生と私」 他 合計 45回

3 収支状況（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額				支出額	収支差額
	収入合計	指定管理料	利用料金	その他収入		
年間予算額 今期 (前期)	407,504 (415,258)	391,896 (402,771)	8,774 (6,274)	6,834 (6,213)	407,504 (415,258)	0 (0)
上半期 予算額	184,702	176,731	4,392	3,579	184,702	0
4月	22,729	20,410	880	1,439	16,703	6,025
5月	33,032	28,811	2,849	1,372	26,118	6,913
6月	49,808	47,843	1,302	662	47,316	2,492
7月	30,611	29,609	692	309	26,620	3,990
8月	28,982	26,410	2,334	238	30,205	△1,222
9月	56,102	23,648	3,159	29,294	53,610	2,491
今年度 半期計	221,267	176,731	11,219	33,317	200,575	20,692
前年度 同期計	239,782	179,024	4,896	55,862	219,049	20,733

- 1 指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。  
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

- ①年間予算額における収支差額が0でない場合は、その理由を記載する。  
 ②今年度半期計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し詳細に記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。  
 ③今年度半期計における収入額又は支出額が前年度対比30%以上プラス又は、マイナスとなっている場合は、理由を分析し、詳細に記載する。

<意見等>

前年同期に比較して特別展、夏の企画展共に利用料金収入が大幅に増加したが、それに伴い経費がかさみ例年並の収支差額となっている。

②の理由

- ・ 空調用熱源の点検や空調機周りの機器整備工事は展示室への影響が大きいため、事前に準備はしているが、例年工事そのものは中間期の10月以降に集中的に実施するため。
- ・ 展覧会開催経費の精算手続き（履行後の精算、請求書の未達等）に対処して、執行時期を調整しているため。（例：「安野光雅展」は8月～9月にかけて開催しているため、経費の支払は履行確認後の10月以降になる。）

①③該当なし

<参考>

本施設について県が支出した（する）修繕費等

100万円以上の修繕費等については、県が支出することと基本協定で定めている。施設の状態をよりの確に把握するため、県が支出した修繕費等についても参考に記載している。

- 1 県が支出した施設の修繕費等の金額及び工事内容を記載する。
- 2 「金額」欄は、半期ごとの総額を記載し、「工事箇所・内容」欄には、主な工事とその金額をカッコ書きで記載する。

⇒該当なし

	金額	工事箇所・内容
上半期		
下半期		
総額		

(今期に行った資本的な収入及び支出等の状況)

⇒該当なし

	内容	金額(千円)
収入の状況		
支出の状況		
積立等の状況		(期首)
		(期末)

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。  
支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。

積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

#### 4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
4月	5,221人	2,910人	79.4%
5月	10,810人	8,240人	31.2%
6月	5,502人	5,529人	△0.5%
7月	4,632人	8,174人	△43.3%
8月	8,720人	3,351人	160.2%
9月	10,628人	3,711人	186.4%

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年対比増減率
今年度計	57,400人 (年間目標)	45,513人	31,915人	-%	42.6%

#### 利用状況に関する意見等

①今年度上(下)半期計の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由及び対応策を分析し記載する。(特に、理由の記載にあたっては、各月の状況を分析し、わかりやすく具体的に記載する。)

②目標利用者数を下回った場合は、その理由を記載する。

なお、目標利用者数を定めていない場合は、未記入もやむを得ないが、次回以降は記入する。

#### <意見等>

① 4月末から6月上旬まで開催した「遠藤周作展」は、震災後初の特別展として、<生命(いのち)>というキーワードを強くアピールし、キリスト教関係者への広報に力を入れたこともあり、熱心な読者を中心に12,000人を超す入場者があり、内容的にも意義ある展覧会となった。6～7月の「漱石と文人たちの書画展」は、前年同期の「開高健展」と比較し、約4割入場者数が減少したが、館蔵コレクションを用いて経費面の節減を図ったことで、一定の成果を上げた。また8～9月は、「安野光雅展」を夏の児童文学展として初の特別展規模で開催し、15,000人を超す盛況となり、予想を超えた好成績を残せた。

次年度以降も夏期の児童文学展では、集客面に配慮しつつ、充実した企画を実施したい。

②該当なし

#### 5 苦情・要望等の状況

##### 受付件数(うち施設所管課受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
4月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	15(0)	15(0)
5月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	23(0)	23(0)
6月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	20(0)	20(0)
7月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	16(0)	16(0)
8月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	10(0)	10(0)
9月	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	13(0)	13(0)
合計	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	97(0)	97(0)

## 6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなど、特に注意すべき場合に記載する。

分野	概要	対応状況
施設・設備	・元町・中華街駅から近代文学館までの道のりが判り難い。	・所管課から横浜市に依頼し、アメリカ山公園内に案内表示板を設置した。
職員対応		
事業内容	・騒々しい観覧者を注意して欲しい。	・職員による展示室内巡回を増やすとともに、館内の案内表示を工夫した。
その他		

## 7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、県庁改革課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

発生日	概要・対応状況等
5月12日	展示館入口スロープを下って帰宅される途中に転倒。 右膝周囲を強打し、本人の希望により救急車で病院へ搬送。 後日お礼の連絡有り。
月 日	
月 日	

## 8 随時モニタリングの実施状況

事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。

⇒該当なし

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日			

9 上(下)半期の所見等

1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。

指定管理者

(展覧会について)

- ・ 「遠藤周作展」は65歳以上及び高校生の有料化後、初の特別展となったが、入場者数が12,360人(前年比約50%増)に及び、有料入場者率も71%と高い比率となった。65歳以上の入場者は3,036人で、前年比10%減となり、有料化による影響は小さかったと言える。また、高校生については、HP等で団体見学の観覧料免除を積極的に周知し、免除申請の手続きを簡便にしたことで、1,020人が来館、前年比5.7倍に増えた。これはキリスト教関係、大学等への広報、高等学校への動員呼びかけなどが奏功したものと思われる。
- ・ 夏の「安野光雅展」は、安野作品の人気の高さと、教育委員会の協力を得た横浜市内全小・中学生へのチラシ配布、東急、相鉄など私鉄各線へのポスター掲出、映画「コクリコ坂」のキャンペーン参加など諸要素が重なり、前年比5.1倍の入場者があり、夏期の展示としては過去最高の入場者となった。

(閲覧室利用)

- ・ 昨年度から取り組んできた閲覧室へ展示観覧者を誘導するための方策(展示関連図書の特設書架を常置し、展示室に案内標識を置くなど)が効果を現し、閲覧室の利用者が前年上半期に比べ1.86倍の増となり、利用率向上の成果を収めた。

(その他)

- ・ 法人として公益事業を推進するため、特定資産の基金を一部取り崩し、夏の特別展開催のための原資として活用した。予算上の配慮があったことで、広報宣伝活動や解説図録の制作などがスムーズに実施でき、入場者数の増加と良好なアンケート結果(回答者の約71%が「満足」)に繋がったと考える。

施設所管課

- ・ 事業については、「遠藤周作展」「漱石と文人たちの書画展」「安野光雅展」の開催など、純文学、書画美術、児童文学、装幀美術など文学を多様な側面から捉えた展示を行うなど、企画に工夫をこらし十分な成果を上げている。65歳以上及び高校生の有料化に伴い、入場者数が減少するのではと危惧されたが、魅力ある展示とそれに関連した各種事業の充実や新たな広報の開拓などの努力により、昨年同期より入場者数、利用料金収入ともに大幅な増加となり、経費面でも着実な運営がなされている。
- ・ 館の運営管理については、来館者の要望にできるだけ応え、概ね良好である。
- ・ 引き続き、子ども向け行事やパネル文学展の開催など、若年層に対し文学への意欲や関心をかきたてるような事業に取り組むとともに、人気作家による朗読会など収支のバランスに配慮した安定的な事業運営に努めていただきたい。